



豊かな心を育むために

学校がめざしていること



<学校教育の目標>

1 心豊かな児童生徒の育成

- (1) まわりの人たちと協力しながら、より高い目標に向かって努力する心を育てる。
- (2) 礼儀や思いやり、感謝の心、感動する心など豊かな心を育てる。

2 心身ともに健康な児童生徒の育成

- (1) 健康的で望ましい生活習慣を身につけようとする態度を育てる。
- (2) 自らの人生をたくましく切りひらく強い心とからだを育てる。

3 強い意志を持って、自ら意欲的に学ぶ児童生徒の育成

- (1) 自ら課題をもち、忍耐強く解決しようとする学習態度を養う。
- (2) 問題解決のために必要な知識や技能を、進んで身につけようとする態度を養う。

4 進んで働き、よりよい社会をめざす児童生徒の育成

- (1) 社会のために進んで働こうとする強い意志と責任感を育てる。
- (2) 真理を愛し、正義を尊び、互いの人格を尊重する態度を養う。

5 わが国の文化や伝統を尊重するとともに世界の人々と共生できる児童生徒の育成

- (1) 座間市の文化や風土を愛し、よりよい郷土づくりに努力する態度を養う。
- (2) わが国の文化や伝統を愛し、世界の平和と人類の幸福の実現に役立つ人を育てる。



<児童・生徒の皆さんへ>

みなさんは、今、どんな希望を持っていますか？
将来、こんな願いがかなうといいな・・・こんな職業に就きたい・・・、などきっと様々な思いがあるでしょう。その希望の実現に向けて、1日1日を大切に、なりたい自分を目標に、「豊かな心」を育てていきましょう。
昔、座間市にあった「幼年会」という子どもの集まりでは、自分たちで約束を決めてみんなで守っていたそうです。みなさんも、「豊かな心」を育てるために小・中学生全員で決めた「ざまっ子八つの誓い」をいつも心にとめて、仲間とともに成長していきましょう。

<保護者の皆さんへ>

家族の絆を深く強いものにしていきたいものです。そのためには、家族が同じ時間と場を共有することから始めましょう。家族みんなが話し合い共通の価値観を有し、一緒に行動することで家族の連帯感が高まっていきます。会話のない家庭はさびしいものです。子どもにとって一番つらいのは、自分の悩みや失敗を家族に話せなくなってしまうことなのです。
そして、親としての愛情をもって、子どもの弱さや欠点を受け入れましょう。また一方では、過ちを直すことも大切です。子どもを育てるには、日々、悩みながらも親としての決断をしていかなければなりません。お子さんに「人に迷惑をかけてはいけません」と教えていますか？迷惑行為は「止めなさい」と親がはっきり言いましょう。よく言われるように、最初から完全な親や子どもはいません。親になる過程で我が子と出会い、子どもを育てることを通して子どもと共に成長し、親になっていくと考えましょう。

<地域の皆さんへ>

顔を会わせた時に、にっこり笑顔がこぼれるようなそんな関係でありたいと思います。地域に住む大人も子どもも、お互いに心が通い合う第一歩として、互いに顔と名前が分かること、互いの存在を認め合うことから始めましょう。こんな思いで、「名前を呼んで声をかけ、明るく挨拶をしましょう」という項目を考えてみました。
また、地域に触れ合いの場を増やし、みんなで行動することで、地域への愛着を醸成し、地域に根ざした価値観、自然、町を大切に思う気持ちが共有されていきます。これが、地域の教育力となります。

「豊かな心を育むひまわりプラン」の詳細版は、座間市ホームページに掲載しています。
トップページ>子育て・教育>幼稚園・小学校・中学校

豊かな心を育む ひまわりプラン

(学校教育指導計画)



「豊かな心」とは、実り多い豊かな自己実現が果たせる心です。つまり、子どもたちが、「こんな大人」になりたいと願い、それを目標として自発的に行動する「心」、また仲間と共に努力する「心」です。
心は見えませんが、行動に表れます。子どもたちの日々の行動の中には、「豊かな心」の小さなつぼみが芽生えています。興味をもって学ぼうとする心、歌や絵を愛する心、自然の不思議に感動する心、あやまちを正そうとする心、困った人を助ける心、行いを反省する心など。私たち大人は、それらのつぼみを見つけ、育て、個性豊かな花を咲かせてあげたいと思います。
「豊かな心を育むひまわりプラン」が最終的にめざすのは、より高く、大きく、たくさん自己実現を果たすとともに、周りの人と一緒に前向きに幸せに生きることです。